

授業 科目名	臨床看護学方法論Ⅱ (慢性期・終末期) (Methods II in Clinical Nursing)	履修年次	2単位 30時間	担当教員名： 科目責任者：浅井美千代〔看護師〕 (研究室：教育棟B319) 大塚知子〔看護師〕・坂本明子〔看護師〕 三枝香代子〔看護師〕・田口智恵美〔看護師〕 大内美穂子〔看護師〕
		必修：看3年	コード：NSP203	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践、Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 疾患や障害により治療を必要とする患者とその家族への基本的看護援助方法を理解できる。 ①医療施設や地域社会で療養生活を送る回復期・慢性期・終末期にある患者とその家族への基本的看護援助方法を理解できる。②患者とその家族に対する看護計画立案方法を理解できる。				
〔授業の概要〕 病気や障害とともに生きる患者のセルフマネジメントを促すための原則的支援方法、回復期・慢性期リハビリテーションにおける原則的支援方法、終末期にある患者とその家族に対する原則的支援方法、及び、病気や障害の特徴に応じた看護援助方法について、実務経験に基づき教授する。さらに、グループワーク指導を通して、慢性期にある患者とその家族に対する看護計画立案方法について、実務経験に基づき教授する。				
キーワード：慢性疾患、生活習慣、セルフマネジメント、生活再構築、リハビリテーション				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	5/21Ⅱ	セルフマネジメント支援	患者の行動変容を促す支援	浅井美千代
第2回	6/4Ⅲ		セルフモニタリング・症状マネジメントへの支援	大塚 知子
第3回	6/4Ⅳ	慢性的な状態にある患者の 看護	心機能障害を抱えた患者の看護（心不全）	坂本 明子
第4回	6/11Ⅲ		肝機能障害を抱えた患者の看護（肝硬変症）	浅井美千代
第5回	6/11Ⅳ		経過の緩慢な慢性疾患患者の看護（糖尿病）	特別講師
第6回	6/18Ⅲ		呼吸機能障害を抱えた患者の看護（慢性閉塞性肺疾患）	大塚知子
第7回	6/18Ⅳ		免疫機能障害を抱えた患者の看護（膠原病）	浅井美千代
第8回	6/25Ⅲ	機能障害を抱えた患者の回 復期看護	リハビリテーションを受ける患者への基本的看護	浅井美千代
第9回	6/25Ⅳ		機能回復をはかる患者の心理的支援/他職種連携	浅井美千代
第10回	7/2Ⅲ		運動機能障害を抱えた患者への回復期看護	三枝香代子
第11回	7/2Ⅳ		高次脳機能障害を抱えた患者への回復期看護	浅井美千代
第12回	7/9Ⅲ	終末期にある患者の看護	終末期にある患者とその家族への全人的看護	浅井美千代
第13回	7/9Ⅳ	看護過程の展開方法	事例による看護過程展開のグループワーク	浅井・三枝 田口・大内 大塚・坂本
第14回	7/16Ⅲ			
第15回	7/16Ⅳ			
履修条件	臨床看護学概論を履修していることが望ましい			
予習・復習	テキストの該当ページを掲示する。テキストを読んで授業に臨むこと。 復習は、授業資料の見直しを推奨。			
テキスト	成人看護学 慢性期看護, 南江堂/ 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版, 文光堂/ リハビリテーション看護, 医学書院 / 成人看護学 成人看護技術, 南江堂			
参考書・参考資料等	その他、授業の中で適宜紹介する			
学生に対する評価	定期試験(90%)、学習態度(10%)により評価する			

授業 科目名	臨床看護学方法論Ⅲ (Methods Ⅲ in Clinical Nursing)	履修年次:	単位数:1 単位 30 時間	担当教員名: 科目責任者: 田口智恵美 [看護師] (研究室: 教育棟B320) 三枝香代子[看護師]・大内美穂子 [看護師]	
		必修: 看3・4年	コード: NSP301		
		実務経験のある教員による授業科目			
[DP] Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅳ 健康づくりの実践, Ⅱ コミュニケーション能力					
[授業の到達目標及びテーマ] 急性状況下にある患者とその家族に対する看護を行うための基本的知識・技術・態度を修得する ・術前期・術後期に用いられる看護基本技術を演習で実践できる。 ・術後期に起こりやすい事故の内容と事故予防のための行動及び事故発生時の行動を理解できる。					
[授業の概要] 本授業は、演習形式により、急性状況下の患者を想定して、術後合併症の観察や予防を目的とした術前期・術後期に用いられる主要な看護技術を実施する。また、グループワークにより、実際に起こった実習中の事故をもとに作成された事例を深く考察し、事故予防のための行動や事故発生時の行動について明確にする。					
キーワード: 急性期、手術、術後合併症、事故予防					
[授業計画]					
回数	日付	テーマ	内容	担当	
第1回	月Ⅰ	術前の看護技術	【器具を用いた呼吸の練習】 【呼吸音聴診】 【深呼吸の練習】 【排痰法】 【含嗽法】 【臍処置】 【除毛】	田口智恵美 [看護師] 三枝香代子 [看護師] 大内美穂子 [看護師]	
第2回	月Ⅱ				
第3回	月Ⅲ	術前日の看護	術前日の看護場面の設定		
第4回	月Ⅳ		術前日の看護場面の実際		
第5回	火Ⅰ				
第6回	火Ⅱ	術後の看護技術	【深部静脈血栓症の観察と予防】 【医師が行う創の消毒法とガーゼ交換の介助】 【尿と創部ドレーン排液の観察と測定】 【点滴挿入中の術後患者の更衣・清拭】 【術後ドレーン装着患者の離床援助】		
第7回	火Ⅲ				
第8回	火Ⅳ				
第9回	水Ⅰ				
第10回	水Ⅱ	臨床での事故予防	臨床における事故予防についての学習		
第11回	水Ⅲ				
第12回	木Ⅰ		術直後の看護		術後帰室 15 分後の患者のバイタルサイン測定 と観察の実際と技術チェック
第13回	木Ⅱ				
第14回	木Ⅲ				
第15回	木Ⅳ				
履修条件	臨床看護学方法論Ⅰ、臨床看護学方法論Ⅱの単位を修得していることが望ましい。				
予習・復習	事前課題がある。				
テキスト	成人看護学 急性期看護Ⅰ－概論・周手術期看護－, 南江堂 成人看護学 成人看護技術, 南江堂				
参考書・参考資料等	その他、授業の中で適宜紹介する				
学生に対する評価	知識・技術の修得状況(80%)、学習態度(20%)により評価する				

授業 科目名	ターミナルケア論 (End-of-Life Care)	履修年次 選択：看3年 編3・4年	1単位 15時間 コード：NSP204	担当教員名： 科目責任者 浅井美千代[看護師] (研究室：教育棟 B319) 春日広美[看護師]・三枝香代子[看護師] 佐伯恭子[看護師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム, II コミュニケーション能力, III 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
①ターミナル期にある人々とその家族に対する原則的看護を理解できる。 ②療養の場やライフステージに応じたターミナルケアの特徴を理解できる。				
〔授業の概要〕				
ターミナル期にある人々とその家族に対する原則的看護及びターミナルケアにおける倫理上の課題について教授する。また、病院（一般病棟・緩和ケア病棟・救急医療施設）および在宅におけるターミナルケアの特徴、高齢者および子どもへのターミナルケアの特徴について、実務経験に基づき教授する。				
キーワード：終末期、ターミナルケア、療養の場、ライフステージ				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/9	ターミナルケア総論	終末期患者及び家族に対する原則的看護	浅井美千代
第2回	4/16	在宅におけるターミナルケア	在宅で療養する終末期患者とその家族へのターミナルケア	春日 広美
第3回	4/23	病院におけるターミナルケア 1	救急搬送され終末期に至った患者とその家族へのターミナルケア	三枝香代子
第4回	4/30	高齢者へのターミナルケア	終末期にある高齢者とその家族へのターミナルケア	佐伯恭子
第5回	5/7	病院におけるターミナルケア 2	入院患者とその家族へのターミナルケア（ホスピス緩和ケア病棟・緩和ケアチーム）	特別講義講師 [看護師]
第6回	5/14	子どもへのターミナルケア	終末期にある子どもとその家族へのターミナルケア	特別講義講師 [看護師]
第7回	5/21	ターミナルケアにおける倫理上の課題	ターミナルケアにおける倫理的課題	特別講義講師 [看護師]
第8回	5/28	まとめ	授業全体のまとめ	浅井美千代
履修条件	特になし			
予習・復習	各担当教員の指示による			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験（90%）と学習態度（10%）により評価する。			

授業 科目名	急性期看護学実習 (Critical Care : Nursing Practicum)	履修年次 必修：看3・ 4年	2単位 90時間 コード：NSP302	担当教員名： 科目責任者 浅井美千代[看護師] (研究室：教育棟 B319) 三枝香代子[看護師] 田口智恵美[看護師] 大内美穂子[看護師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム, II コミュニケーション能力, IV 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 急性状況下にある成人患者及びその家族に対する看護を行うために必要な基本的知識・技術・態度を修得する。 1) 急性状況下にある成人患者及びその家族に対し、人々の発達段階を踏まえながら、適切な看護援助を行うことができる。 2) 専門職業人として適切な態度・意欲をもって実習に臨むことができる。				
〔授業の概要〕 この授業は、急性期治療をうける成人患者への看護実践を通して、上記に示す到達目標の達成をめざす。学生は原則的に患者1名を受け持ち看護計画をたてて看護を実施・評価する。看護師の実務経験を基盤にした担当教員の指導が臨床指導者と共に、個別指導や集団指導およびカンファレンスを計画しながら、学生の臨床での学びを支援する。				
キーワード：成人期，急性期，看護過程				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内 容		担当
第1回	ガイダンス	実習の目的・方法		浅井美千代 三枝香代子 田口智恵美 大内美穂子
第2回	実習施設オリエンテーション 受け持ち患者の情報収集	実習施設オリエンテーション 受け持ち患者の決定と情報収集		
第3-9回	病棟実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原則的に患者1名を受け持ち、看護計画をたてて看護を実施・評価する。 ・ 受け持ち患者が手術室、ICU等に入室する場合は学生も入室し実習を行う。 実習施設は、千葉県がんセンター、千葉県総合救急災害医療センター、東京歯科大学市川総合病院を予定している。		
第10回	実習評価	実習評価		
履修条件	臨床看護学概論、看護技術論Ⅳ・Ⅴ、臨床看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学実習の単位を既に修得していること、臨床看護学方法論Ⅲの単位を修得見込みであること			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	特になし			
学生に対する評価	実習目標（知識・技術・態度意欲の各項目）への到達度（100%）により評価する			

授業 科目名	慢性期看護学実習 (Chronic Illness Care : Nursing Practicum)	履修年次 必修：看 3・4年	3単位 135時間 コード：NSP302	担当教員名： 科目責任者 浅井美千代 [看護師] (研究室：教育棟 B319) 大塚知子[看護師] 坂本明子[看護師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム, II コミュニケーション能力, IV 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 回復期・慢性期にある成人患者及びその家族に対する看護を行うために必要な基本的知識・技術・態度を修得する。 1) 回復期・慢性期にある成人患者及びその家族に対し、人々の発達段階を踏まえながら、適切な看護援助を行うことができる。 2) 専門職業人として適切な態度・意欲をもって実習に臨むことができる。				
〔授業の概要〕 この授業は、回復期・慢性期にある成人患者への看護実践を通して、上記に示す到達目標の達成をめざす。学生は原則的に患者1名を受け持ち看護計画をたてて看護を実施・評価する。看護師の実務経験を基盤にした担当教員の指導が臨床指導者と共に、個別指導や集団指導およびカンファレンスを計画しながら、学生の臨床での学びを支援する。				
キーワード：成人期，回復期，慢性期，看護過程，外来看護				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内 容		担当
第1回	ガイダンス 実習前演習 実習施設オリエンテーション	実習の目的・方法 実習に必要な看護技術の演習 実習中の事故予防に関する演習 実習施設オリエンテーション		浅井美千代 大塚知子 坂本明子
第2回	受け持ち患者の情報収集	受け持ち患者の決定と情報収集		
第3回	看護計画立案	個別学習と集団指導により看護計画立案		
第4-14回	病棟実習	・ 原則的に患者1名を受け持ち、看護計画をたてて看護を実施・評価する。 実習施設は、東京歯科大学市川総合病院、千葉大学医学部附属病院、千葉中央メディカルセンターを予定している。		
第15回	実習評価	実習評価		
履修条件	臨床看護学概論、看護技術論Ⅳ・Ⅴ、臨床看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学実習の単位を既に修得していること、臨床看護学方法論Ⅲの単位を修得見込みであること			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	特になし			
学生に対する評価	実習目標（知識・技術・態度意欲の各項目）への到達度（100%）により評価する			

授業 科目名	精神看護学概論 Introduction to Mental Health and Psychiatric Nursing	履修年次:	単位数:	担当教員名: 科目責任者 小宮浩美 [看護師] (研究室 教育棟 B315)
		必修: 看1年 編3年	1単位 15時間 コード: NSP205	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III. 実践に必要な知識 I. 倫理観とプロフェッショナリズム II. コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1) こころの健康の回復や保持増進のために必要な基礎知識について説明できる。 2) 看護職者として他者とコミュニケーションする際に必要な技術と態度が習得できる。 3) 現代社会における精神看護の役割について説明できる。				
〔授業の概要〕				
本授業は、こころの健康の回復や保持増進のために必要な基礎知識と技術、態度について学修することを目的とする。精神看護学とこころの健康についての理論的な理解の上に、ライフサイクルとこころの健康問題、環境におけるこころの健康問題、医療におけるコミュニケーション、精神保健医療における歴史の変遷について、精神科看護師の実務経験を活かした講義形式により教授し、精神看護の役割について学ぶ。				
キーワード: 精神的健康、精神看護学、精神的発達、コミュニケーション、ケア				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	11/21	ガイダンス こころの健康について	ガイダンス こころの健康とは何か (半コマ授業) 予習: こころの健康とはどのような状態にあることをいうのか、様々な世代や立場の人から意見を聞き、文章で整理しておく。 復習: こころの健康について、様々な定義をもとに自分の考えをまとめる。	
第2回	11/28	こころ (精神) のとらえ方	脳の構造と認知機能、精神 (心) の構造と働き	
第3回	12/5	こころ (精神) の発達に関する主要な考え方と健康問題	ライフサイクルにおける精神的健康問題と精神発達の理論 (フロイトの精神学的発達理論、エリクソンの漸成的発達理論、Mahlar の分離個体化理論)	
第4回	12/12	環境におけるこころ (精神) の健康問題	家族と精神 (心) の健康、暮らしの場と精神 (心) の健康、現代社会と精神 (心) の健康 (虐待、アルコール依存症、うつ病、自殺、ハラスメント、DV)	
第5回	12/19	こころ (精神) の危機状況と精神保健	危機理論、ストレス、ストレスマネジメント	
第6回	1/9	医療におけるコミュニケーション	ケア、コミュニケーション、コミュニケーション技術	
第7回	1/23	精神保健医療福祉の歴史と現在の姿と精神看護の役割	諸外国と日本の精神保健医療の歴史、精神保健医療福祉制度と看護の役割	
第8回	1/30	まとめ	授業全体を通じたまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		第1回は本シラバス参照。第2回以降の予復習内容は、初回ガイダンスで説明する。		
テキスト		精神看護学概論 精神保健 (新体系看護学全書—精神看護学) 岩崎 弥生 (編集), 渡邊 博幸 (編集) メジカルフレンド社		
参考書・参考資料等		特に指定しない。授業の中で適時紹介する。		
学生に対する評価		小テスト (5%) 定期試験 (60%)、課題 (30%)、学習態度 (5%) により総合的に評価する。		

授業 科目名	高齢者・在宅看護学概論 (Introduction to Gerontological and Home Care Nursing)	履修年次: 看1、編3	単位数: 1単位 15時間	担当教員名: 木内千晶[看護師] (研究室:教育棟 B305)、 春日広美 [看護師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム、III実践に必要な知識、VI多職種との連携				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. 我が国の人口構造の推移と今後の見通しを理解できる 2. 高齢者の暮らしを支える保健医療福祉制度や権利擁護制度の概要を理解できる 3. 地域包括ケアシステムの中での在宅看護の位置づけを理解できる 4. 在宅看護の概念、対象とその支援者および看護との連携、関連制度を理解できる				
〔授業の概要〕 この授業は、講義形式により、わが国の高齢者や在宅療養者の暮らしを支える保健医療福祉制度の概要について理解することを目的とする。また、高齢者や在宅療養者に対する看護実践において活用可能なモデル・理論について概説をすると共に、高齢者や在宅療養者に対する看護実践の現状とその課題について学習する。				
キーワード: 高齢者、在宅療養者、介護保険制度、看護				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/2	高齢化が進む我が国の現状	ガイダンス、高齢者人口の推移、多様な高齢者像、老化のメカニズム	木内千晶
第2回	10/9	高齢者看護の目標 高齢者看護を支える理論	高齢者看護のなりたちと高齢者看護の役割、目標、諸理論	木内千晶
第3回	10/16	高齢者の発達課題 保健医療福祉制度の変遷	高齢者のライフサイクルと発達課題 高齢者を取り巻く保健医療福祉制度	木内千晶
第4回	10/23	高齢者の権利擁護	高齢者の権利擁護、高齢者虐待	木内千晶
第5回	10/30	在宅看護の概念	在宅看護の概念、社会的背景、歴史	春日広美
第6回	11/6	在宅看護の対象とその支援者	在宅看護の対象とは誰か、対象を支援するのは誰か	春日広美
第7回	11/13	在宅看護にかかわる制度	介護保険・医療保険制度の概要	春日広美
第7.5回	11/20	地域共生社会と在宅看護	地域共生社会を実現するための地域包括ケアシステムと在宅看護の役割	春日広美
履修条件	特になし			
予習・復習	予習には講義のテーマに関連する新聞記事や書籍を読んでおくことを推奨する。復習には、講義で配布した資料の見直しを推奨する。			
テキスト	(高齢者) 新体系看護学全書 老年看護学①メジカルフレンド社 (在宅) 新体系看護学全書 地域・在宅看護論 メジカルフレンド社			
参考書・参考資料等	授業において適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験 (70%)、レポート課題 高齢者/在宅 (各 10%=20%)、学習態度 (10%) により、総合的に評価する。 ※本授業の終了時には、ポートフォリオに基づく授業参加に対する振り返りを行うこと (但し、ポートフォリオの記述内容は評価に含めない)。			

授業科目名	高齢者・在宅看護学 方法論 I (Methods I in Gerontological and Home Care Nursing)	履修年次: 必修 看2年	単位数: 1 単位 30 時間 コード: NSP207	担当教員名:科目責任者 春日広美[看護師] (研究室 B312), 木内千晶 [看護師] (研究室 B305), 佐伯恭子[看護師], 成玉恵[保健師]
〔DP〕 II コミュニケーション能力、III 実践に必要な知識、VI 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. 高齢者、在宅療養者の加齢にともなう身体的・心理的・社会的変化を理解できる。 2. 高齢者、在宅療養者の身体、精神、生活の状況をふまえた看護を考えることができる。 3. 地域共生社会における高齢者、在宅療養者の暮らしを考察できる。				
〔授業の概要〕: 高齢者・在宅療養者を身体・心理・社会的側面から包括的に把握し、対象の特性に応じた看護援助を実践するための基礎的知識・技術を学習する。また、地域における対象の暮らしを支えるための社会制度、背景を理解する。				
キーワード: 高齢者、在宅療養者、家族、介護保険制度、老化、地域共生社会				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	10/7	高齢者の特徴とアセスメント①	高齢者の身体、心理、社会的特徴を理解する	木内千晶
第2回	10/21	高齢者の生活を支える援助①	排泄の援助について理解する (便秘と尿失禁を中心に)	佐伯恭子
第3回	10/28	高齢者の特徴とアセスメント②	高齢者の総合的機能評価について理解する	木内千晶
第4回	11/11	認知機能の障害と看護①	認知症高齢者への看護 (予防・うつを含む) を理解する	佐伯恭子
第5回	11/18	認知機能の障害と看護②	認知症高齢者への看護 (せん妄を含む) を理解する	佐伯恭子
第6回	11/25	高齢者の生活を支える援助②	基本動作の援助について理解する (転倒予防を中心に)	木内千晶
第7回	12/2	高齢者の生活を支える援助③	活動と休息の援助について理解する (睡眠を中心に)	木内千晶
第8回	12/9	高齢者の生活を支える援助④	コミュニケーションの援助について理解する	木内千晶
第9回	12/16	訪問看護制度と現状	訪問看護制度とは、訪問看護の現状	春日広美
第10回	12/23	地域包括ケアシステムにおける看護	地域に暮らす様々な対象の生活を支える看護の役割	成玉恵
第11回	1/6	在宅におけるケアマネジメント①	ケアマネジメントの実践 事例を用いたケアプランの作成	成玉恵
第12回	1/20	在宅におけるケアマネジメント②	ケアマネジメントの実践 ケアプランのフィードバック	成玉恵
第13回	1/27	在宅看護の実際	訪問看護の実際と地域包括ケアシステムでの役割	特別講師 [訪問看護師]
第14回	1/29	在宅診療の実際と課題	在宅診療の実際と訪問看護との連携	特別講師 [医師]
第15回	2/3	移行支援	病院・施設・在宅を繋ぐ移行支援の考え方と実際	春日広美
履修条件	特になし			
予習・復習	予習: 該当箇所のテキストを読んでおく。授業内で小テストをする場合がある。 復習: 毎回の学習目標の達成度を自己評価し、不足について復習する。			
テキスト	(高齢者) 新体系看護学全書 老年看護学①②メヂカルフレンド社 (在宅看護学) 新体系看護学全書 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社			
参考書・参考資料等	講義時に適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験 (70%)、レポート課題 高齢者/在宅 (各 10%=20%) 学習態度 10% ※本授業の終了時にはポートフォリオに基づく授業参加に対する振り返りを行うこと (ポートフォリオの記述内容は評価に含めない)			

授業科目名	高齢者看護学方法論Ⅱ (Methods II in Gerontological Nursing)	履修年次: 必修看3年	単位数: 1 単位 30 時間	担当教員名: 木内千晶 [看護師] (研究室: 教育棟 B305)、佐伯恭子[看護師]、東辻朝彦[看護師]、青木綾香[看護師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅱ. コミュニケーション能力 Ⅲ. 実践に必要な知識、Ⅵ. 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. 高齢者がかかりやすい疾患の特徴やその治療内容を踏まえた上で、高齢者とその家族に提供すべき看護について具体的に考えることができる。				
2. 高齢者の健康や生活を支える看護過程の展開について理解できる。				
〔授業の概要〕				
この授業では、老化に関連する疾病や障がいをもつ高齢者とその家族への援助方法について講義と演習を組み合わせ教授する。特に、疾病や障がいが高齢者とその家族の生活に及ぼす影響を踏まえた上で、高齢者の尊厳を守りつつ、自立支援を念頭に置いた援助の方法を学ぶ。				
キーワード: 高齢者、家族、疾患、健康障がい、自立支援、看護過程				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	4/10	根拠に基づく看護実践の理解①	視聴覚機能の低下が認められる高齢者への看護を考える	佐伯恭子
第2回	4/17	根拠にも続く看護実践の理解②	脱水・浮腫が認められる高齢者への看護を考える	木内千晶
第3回	4/22	高齢者への看護技術の実践①	フレイルが認められる高齢者への栄養とリハビリテーションに関する看護を理解する	特別講師[看護師]
第4回	4/24	根拠に基づく看護実践の理解③	運動器疾患をもつ高齢者への看護を考える	佐伯恭子
第5回	5/15	根拠に基づく看護実践の理解④	感染性疾患(疥癬)をもつ高齢者への看護を考える	木内千晶
第6回	5/15	根拠に基づく看護実践の理解⑤	パーキンソン病をもつ高齢者への看護を考える	木内千晶
第7回	5/22	根拠に基づく看護実践の理解⑥	COPDをもつ高齢者への看護を考える	木内千晶
第8回	5/29	根拠に基づく看護実践の理解⑦	血液透析療法を受ける高齢者への看護を考える	佐伯恭子
第9回	6/5	高齢者への看護技術の実践②	高齢者の看護過程の展開①	木内、他
第10・11回	6/12 6/19	高齢者への看護技術の実践③④	高齢者のフィジカルアセスメント	東辻、他
第12回	6/26	高齢者への看護技術の実践⑤	高齢者の看護過程の展開②	東辻、他
第13回	7/10	高齢者への看護技術の実践⑥	栄養状態をアセスメントする視点を理解する	佐伯恭子
第14回	7/10	高齢者への看護技術の実践⑦	高齢者の看護過程の展開③	東辻、他
第15回	7/17	高齢者への看護技術の実践⑧	高齢者の看護過程の展開④	東辻、他
履修条件	特になし			
予習・復習	予習はテキストを読んでおくことを推奨する 復習は講義で配布した資料の見直しを推奨する			
テキスト	新体系看護学全書 老年看護学①②メヂカルフレンド社 看護診断の看護過程ガイド 中央法規			
参考書・参考資料等	講義時に適宜紹介する			
学生に対する評価	定期試験(80%)、課題(10%)、学習態度(10%)により、総合的に評価する。 ※本授業の終了時には、ポートフォリオに基づく振り返りを行うこと(但し、ポートフォリオの記述内容は評価に含めない)。			

授業 科目名	在宅看護学方法論Ⅱ (Methods II in Home Care Nursing)	履修年次:	単位数:1 単位 30 時間	担当教員名:科目責任者 春日広美[看護師] (研究室: B312) 成玉恵[保健師]
		必修:看3年	コード: NSP209	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅱコミュニケーション能力、Ⅲ実践に必要な知識、Ⅵ多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. 様々な在宅看護の対象が持つ健康および生活の障害を実践的に査定できる。 2. 様々な対象の多様な生活の場の特徴を考慮した看護活動を模擬的に実践できる。 3. 地域包括ケアシステムにおける在宅ケアチームの一員としての役割を実践的に理解できる。				
〔授業の概要〕				
在宅看護の対象が望む生活を支える看護を提供するための基礎的な知識・技術、態度を学ぶ。また、協働して対象の生活を支える在宅ケアチームでの連携を学び、地域包括ケアシステムにおける看護の役割を理解する。これらを、演習を中心とした授業形式で学ぶ。				
キーワード: 生活の場での観察とアセスメント 在宅看護過程 在宅ケアチーム				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/10	オリエンテーション 在宅看護を提供するための基礎知識	オリエンテーション 生活の概念、在宅におけるケア提供の特性	春日 広美
第2回	4/17	様々な対象への看護①	小児とその家族への看護	特別講師 [訪問看護師]
第3回	4/24	様々な対象への看護②	精神疾患療養者とその家族への看護	特別講師 [訪問看護師]
第4回	5/1	生活の場での観察アセスメント①	1. 在宅における看護師の観察とアセスメント 2. 在宅看護過程の考え方	春日・成
第5・6回	5/8	生活の場での観察アセスメント②③	在宅における看護師の観察とアセスメントの実践①②	春日・成
第7回	5/22	在宅ケアと訪問看護	訪問看護制度、ケアマネジメント、多職種連携	春日・成
第8回	5/29	在宅看護過程の展開	事例を用いた在宅看護アセスメント、計画立案	春日 広美
第9回	6/5	在宅における医療的ケアと管理	1. 人工呼吸器、酸素療法、中心静脈栄養法の管理 2. 在宅医療管理システム	春日 広美
第10・11回	6/12 6/19	在宅での看取り①②	がん終末期の療養者とその家族への看護の実践①②	春日・成
第12回	6/26	医療依存度の高い療養者①	難病療養者とその家族への看護 事例を用いた在宅看護アセスメント、計画立案	成・春日
第13・14回	7/3	医療依存度の高い療養者②③	難病療養者とその家族への看護の実践①②	成・春日
第15回	7/17	在宅看護の現状と未来	世界の在宅看護、未来の在宅看護、	春日 広美
履修条件	高齢者・在宅看護学概論, 高齢者・在宅看護学方法論Ⅰが既習であることが望ましい。			
予習・復習	予習: 該当するテキストの箇所を読み、配布された資料を確認する。授業内で小テストや事前課題を課すことがある。それ以外で評価対象の課題あり。			
テキスト	新体系看護学全書 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社			
参考書・参考資料等	在宅看護過程 第2版 メヂカルフレンド社 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ ナースのためのやさしくわかる訪問看護 ナツメ社			
学生に対する評価	定期試験 (60%)、授業内課題 (30%)、出席態度 (10%) により、総合的に評価する。 ※本授業の終了時にはポートフォリオに基づく授業参加に対する振り返りを行うこと (ポートフォリオの内容は評価に含めない)。			

授業 科目名	精神看護学方法論 I Methods in Psychiatric Nursing I	履修年次: 必修: 看2年	単位数: 1 単位 30 時間	担当教員名: 科目責任者 小宮浩美 〔看護師〕 (研究室 教育棟 B315) 加藤隆子〔看護師〕 小林雅美〔看護師〕
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III. 実践に必要な知識、I. 倫理観とプロフェッショナルリズム、II. コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 1) 精神障害をもつ対象を統一体として理解し、回復過程を促進する看護の役割、実践、展開方法を説明できる。 2) 患者―看護師関係の特徴と自己理解・他者理解を深め、治療的関係を構築するための方法を説明できる。 3) 精神看護を実践する者として必要な倫理的態度を身につける。				
〔授業の概要〕 本授業は、精神障害をもつ対象を統一体として理解し、疾病の予防と回復に必要な精神看護学における基本知識と技術、態度を修得すること、生活の場に応じた看護のあり方を学修することを目的とする。精神症状と看護援助、精神科特有の検査や治療と看護、主要な精神疾患の理解と看護、患者―看護師関係に関連した理論、精神科リハビリテーションおよび地域精神保健活動について、精神科看護師の実務経験を活かした講義と演習方式で教授する。				
キーワード: 精神疾患、精神障害、精神科看護、患者―看護師関係、ケアリング				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1・2回	10/3	ガイダンス、精神看護学の基本	精神の健康とは、精神看護学とは	小宮
		ケアの人間関係	ケア、ケアリング、患者―看護師関係の特徴	
第3・4回	10/10	統合失調症をもつ人への看護と家族への看護	統合失調症の回復過程とアセスメント、家族への看護	小宮
		双極性障害・うつ病をもつ人への看護	精神科救急システム、双極性障害・うつ病の看護	
第5・6回	10/17	精神障害をもつ人の抱える症状と診断のための検査	精神機能と精神情緒状態の把握 精神科的フィジカルアセスメントと検査	小宮
		精神疾患の主な治療法と看護	薬物療法、電気けいれん療法、リハビリテーション療法、精神療法、WRAP、心理教育	
第7・8回	10/24	精神看護の発展(1)	精神看護専門看護師の役割と実践	特別講師
		不安症・強迫症をもつ人への看護	精神疾患/障害の診断基準・分類、不安症・強迫症の看護	
第9・10回	10/31	物質関連障害をもつ人への看護	物質関連障害の疾患概念、治療や看護	小宮
		トラウマ・解離性障害・パーソナリティ障害・摂食障害をもつ人への看護	トラウマ・解離性障害・パーソナリティ障害・摂食障害の看護	
第11・12回	11/7	精神看護の発展(2)	司法精神医療と看護	小宮/ 特別講師
		精神看護の援助技法(1)	認知行動療法、リラクゼーションの演習	
第13・14回	11/14	精神看護の援助技法(2)		小宮/加藤/ 小林
		精神障害をもつ人たちを地域で支える看護	地域生活の再構築と社会参加(ケアシステムと法制度、地域の支援、ケアマネジメント)	
第15回	11/21			小宮/加藤/ 小林/ 特別講師
履修条件	精神看護学概論の単位を修得していることが望ましい。			
予習・復習	予習は教科書の該当部分を熟読すること。復習は配布資料をよく読み、授業で学んだこと等をFormsに記載して提出すること。他、授業中に予習・復習を提示する。			
テキスト	精神障害をもつ人の看護(新体系看護学全書―精神看護学) 岩崎 弥生(編集), 渡邊 博幸(編集) メジカルフレンド社			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適時紹介する。			
学生に対する評価	小テスト(5%)、定期試験(60%)、課題レポート(30%)、学習態度(5%)により、総合的に評価する。*本授業の終了時には、ポートフォリオに基づく授業参加に対する振り返りを行うこと(但し、ポートフォリオの記述内容は評価に含めない)			

授業 科目名	精神看護学方法論Ⅱ (Methods in Psychiatric Nursing Ⅱ)	履修年次:	単位数: 30 時間	担当教員名: 科目責任者 小宮浩美 〔看護師〕 (研究室 教育棟 B315) 加藤隆子〔看護師〕 小林雅美〔看護師〕
		必修: 看3年	コード: NSP211	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅱ. コミュニケーション能力、Ⅰ. 倫理観とプロフェッショナリズム Ⅲ. 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 1) 精神障害をもつ対象を統一体として理解し、回復過程を促進する看護の役割、実践、展開方法を説明できる。 2) 自己理解・他者理解を深め、治療的な患者—看護師関係を構築するための技術と態度を身につける。 3) 回復過程を促進するための援助方法を探求し、看護過程を展開する技術を身につける。				
〔授業の概要〕 本授業は、精神障害をもつ対象の回復に向けた実践的な技術と態度を学修することを目的に、精神科看護師の実務経験を活かした講義と演習方式により精神看護学方法論に関する学修の支援を行う。個人ワークやグループワークを通して、具体的な実践方法を修得することを目指す。				
キーワード: 精神疾患、精神障害、精神科看護、患者—看護師関係、ケアリング				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1・2回	4/8	ガイダンス、精神看護学における倫理	精神看護における倫理と安全管理	小宮
		精神の病気・障害をもつということ	精神障害をもち地域生活をしている人の体験	特別講義 講師
第3・4回	4/15	精神看護における援助技術①	感情活用の理論と実際	加藤
		精神看護における援助技術②	タッチケアの理論と技術 (演習)	小宮/加藤 /小林
第5・6回	4/22	看護過程展開演習①	精神看護の看護過程に活用する理論 事例紹介/仮説立案、生育歴・生活歴・現病歴のア セスメントの演習	小宮/加藤 /小林
		看護過程展開演習②		
第7・8回	5/13	看護過程展開演習③	生育歴・生活歴・現病歴のアセスメントの解説	小宮/加藤 /小林/ 特別講義 講師
		看護過程展開演習④	MSE、フィジカルアセスメント、日常生活力アセスマ ントの演習	
第9・10回	5/20	看護過程展開演習⑤	MSE、フィジカルアセスメント、日常生活力アセスマ ントの解説	小宮/加藤 /小林/ 特別講義 講師
		看護過程展開演習⑥	統一体モデルの演習	
第11・12回	5/27	看護過程展開演習⑦	統一体モデルの解説/看護目標・計画立案の演習	小宮/加藤 /小林/ 特別講義 講師
		精神看護における援助技術③	かかわりを振り返ることの意味・プロセスレコード の活用方法・ケアリング	
第13・14回	6/3	看護過程展開演習⑧	看護目標・計画立案の解説	小宮/加藤 /小林/ 特別講義 講師
		精神看護における援助技術④	精神症状をもつ人とのコミュニケーション	
第15回	6/10	まとめ	授業全体を通じたまとめ	
履修条件	精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰの単位を修得していることが望ましい。			
予習・復習	予習は教科書の該当部分を熟読すること。復習は配布資料をよく読み、授業で学んだこと 等を Forms に記載して提出すること。他、授業中に予習・復習を提示する。			
テキスト	精神障害をもつ人の看護 (新体系看護学全書—精神看護学) 岩崎 弥生 (編集), 渡邊 博幸 (編集) メジカルフレンド社			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適時紹介する。			
学生に対する評価	定期テスト (60%)、課題レポート (30%)、学習態度 (10%) により、総合的に評価する。 *本授業の終了時には、ポートフォリオに基づく授業参加に対する振り返りを行うこと (但 し、ポートフォリオの記述内容は評価に含めない)			

授業 科目名	退院支援論 Discharge Planning	履修年次:	単位数:	担当教員名: 科目責任者 春日広美〔看護 師〕(研究室 B312) 小宮浩美〔看護師〕
		選択:看3年 編入3年	1単位15時間 コード: NSP212	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ. 実践に必要な知識、Ⅵ. 多職種との協働、Ⅱ. コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. 退院支援の背景、概念、制度の概要、関係職種について理解できる。 2. 対象が療養の場（病院、介護保険施設、自宅）を移行する際に必要な支援を理解できる。				
〔授業の概要〕				
この授業は講義形式により、患者（療養者）とその家族への入退院支援について学習する。入院支援、退院支援、退院調整の概念の理解をはじめとして、入退院支援にかかわる制度の概要、退院支援におけるアセスメント、施設内外の多職種との連携、地域連携室、退院調整看護師の役割と機能、退院支援にかかわる病棟看護師の活動、療養の場（病院、介護保険施設、自宅）に応じた特徴的な退院支援について学習する。 保健師、看護師、訪問看護師、退院調整看護師などの実務経験に基づきオムニバス形式で講義を行う。				
キーワード: 退院支援 退院調整看護師 地域連携				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第0.5回	5/28	入院・退院支援とは	入院・退院支援、退院調整の概念、制度、求められる背景	春日 広美
第1回	6/4	療養の場を移行すること	対象からみた療養の場の移行	春日 広美
第2回	6/11	入退院支援における多職種連携	退院支援の必要性のアセスメントと病院内外の関係職種・機関との連携	春日 広美
第3回	6/18	退院調整看護の実際	退院調整看護師の活動の実際	浅井 美千代 〔特別講師〕
第4回	6/25	急性期病院における退院支援	急性期病院における困難事例	浅井 美千代 〔特別講師〕
第5回	7/2	介護保険施設における退院・退所支援	病院から介護保険施設への退院支援、介護保険施設から在宅への退所支援	佐伯 恭子 〔特別講師〕
第6回	7/9	精神科病院における退院支援	精神疾患をもつ患者とその家族への退院支援	小宮 浩美
第7回	7/16	地域包括ケア時代の入退院支援	入退院支援の未来と医療者の役割	春日 広美
履修条件	なし			
予習・復習	必要時、授業内で提示する。			
テキスト	なし			
参考書・参考資料等	必要時、授業内で提示する			
学生に対する評価	各回授業内での小テストまたはレポート（90%）学習態度（10%）で総合的に評価する。			

授業 科目名	高齢者看護学実習 (Gerontological Nursing practicum)	履修年次: 必修 看3・4年	単位数: 3単位 135時間 コード: NSP304	担当教員名: 木内千晶[看護師](研究室:教育棟 B305)、佐伯恭子[看護師]、東辻朝彦[看護師]、青木綾香[看護師]
実務経験のある教員による授業科目				
〔DP〕Ⅱコミュニケーション能力、Ⅲ実践に必要な知識、Ⅵ多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体、生活、精神・心理、社会、およびスピリチュアルな側面を統合し、看護の対象となる高齢者の全体像をとらえることができる。 2. 住み慣れた地域での生活を見据えた、高齢者へのシームレスなケアや看護の必要性について理解し、高齢者の個別性に応じた看護計画を立案、実施、評価、修正することができる。 3. 保健医療福祉専門職が活動する場面を体験することで、高齢者とその家族に提供されている保健医療福祉サービスを理解し、看護独自の機能について考察できる。 4. 保健医療職を志す学生としての態度を踏まえ、実習に臨むことができる。 				
〔授業の概要〕				
<p>老年期特有の健康上の課題や生活上のニーズをもつ高齢者を受け持ち、高齢者の尊厳を守りつつ、自立支援を念頭に置いた援助方法を、実践を通して学ぶ。医療施設や介護保険施設等において医療や介護に従事する専門職の協働・連携のあり方と看護職の役割、ならびに、わが国の保健・医療・福祉のシステムについて理解すると共に、看護師としての態度を養うことを目的とする。</p>				
キーワード: 高齢者、介護保険施設、保健医療福祉サービス、住み慣れた地域での生活、看護過程				
〔授業計画〕				
回数	テーマ	内 容		担当
第1回	学内オリエンテーション	実習目的・目標・方法、実習施設の説明 実習に必要とされる知識、技術に関する復習		木内千晶 佐伯恭子 東辻朝彦 青木綾香
第2～5回	病院地域連携部門 血液透析室 通所サービス での実習	高齢者の在宅移行支援の実際、通院治療を受けながら生活する高齢者への支援の実際、通所サービスを利用する高齢者への支援の実際について学ぶ		
第6～14回	介護保険施設での実習	療養を要する高齢者とその家族への看護の実際を学ぶ 受け持ち利用者の看護過程を展開し高齢者の個別性に応じた看護を計画、実施、評価する		
第15回	実習全体のまとめ	面接、記録提出		
履修条件	看護技術論Ⅳ～Ⅴ、高齢者・在宅看護学概論、高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ、高齢者看護学方法論Ⅱ、看護学入門実習、基礎看護学実習の単位を修得していること			
予習・復習	予習は高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ、高齢者看護学方法論Ⅱでの既習内容を確認することを推奨する。 復習は実習記録の見直しをすることを推奨する。			
テキスト	新体系看護学全書 老年看護学①②メヂカルフレンド社 看護診断の看護過程ガイド 中央法規			
参考書・参考資料等	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ、高齢者看護学方法論Ⅱで使用した資料や参考書			
学生に対する評価	実習目標の達成状況(100%)により、総合的に評価する。 ※本授業の終了時には、ポートフォリオに基づく授業参加に対する振り返りを行うこと(但し、ポートフォリオの記述内容は評価に含めない)。			

授業 科目名	在宅看護学実習 Home Care Nursing Practicum	履修年次：	単位数：1単位 45時間	担当教員名：春日広美[看護師] (研究室：B312) 成玉恵[保健師]
		看3・4年	コード：NSP305	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム、III実践に必要な知識、VI多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1) 在宅療養者の健康障害と生活への影響、その家族の生活状況を理解できる。 2) 在宅療養者とその家族が望む生活をおくるための看護の支援を理解し、その一部を実践できる。 3) 地域包括ケアシステムを基盤とした、在宅療養者とその家族を支援するケアシステムにおける看護の役割を述べるができる。 4) 在宅における看護を学習する学生として適切な態度をとれる。				
〔授業の概要〕				
健康障害を持って在宅で療養する人とその家族を理解し、これらの人々が望む生活を他職種とともに地域包括ケアシステムの中で支える看護の活動の実際を学ぶ。				
キーワード：在宅療養者、家族、在宅看護、訪問看護、多職種連携、地域包括ケアシステム、地域共生社会				
〔授業計画〕3年次後期から4年次前期開講する。				
1) 1～3名で指定された1か所の訪問看護ステーションで実習を行う。 2) 1人の療養者を受け持ち、情報収集、アセスメント、看護上の課題の抽出を行う。 3) 受け持ち療養者を含む複数の対象者宅へ、訪問看護師と同行訪問する。				
回数	テーマ	内 容		担当
第1回	オリエンテーション	実習目的・目標の確認、実習施設の説明 在宅看護の知識と実践の復習		春日広美 成 玉恵 非常勤教員
第2回	訪問看護ステーション実習	実習先に分かれて訪問看護師と同行訪問 受け持ち療養者の情報収集とアセスメント		
第3回	訪問看護ステーション実習	実習先に分かれて訪問看護師と同行訪問 受け持ち療養者の情報収集とアセスメント		
第4回	訪問看護ステーション実習	実習先に分かれて訪問看護師と同行訪問 受け持ち療養者のアセスメントと課題の抽出 臨地カンファレンス		
第5回	学内演習	受け持ち療養者の情報、アセスメント、看護上の 課題発表 全体カンファレンス 実習記録の整理および提出		
履修条件	高齢者・在宅看護学概論、高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ、在宅看護学方法論Ⅱ、看護技術論Ⅳ～Ⅴ、看護学入門実習、基礎看護実習が既習であること			
予習・復習	予習は、在宅看護論関連の授業内容。事前テストを行う。 復習は、在宅看護過程の記録を見直し修正すること。			
テキスト	新体系看護学全書 地域・在宅看護論 メヂカルフレンド社			
参考書・参考資料等	在宅看護学関連、退院支援論、ターミナルケア論等の授業資料			
学生に対する評価	ルーブリック評価表に基づき、下記の配分で評価する。 実習記録 72点、 学習態度 28% 出席状況			

授業 科目名	精神看護学実習 Psychiatric Nursing Practicum	履修年次： 必修： 看3・4年	単位数：2単位 90時間 コード：NSP306	担当教員名： 科目責任者 小宮浩美 [看護師] (研究室 教育棟B315) 加藤隆子[看護師] 小林雅美[看護師]
		実務経験のある教員による授業科目		
		[DP] II. コミュニケーション能力 IV. 健康づくりの実践 V. 健康づくりの環境の整備・改善		
[授業の到達目標及びテーマ]				
1) 精神に障害をもつ人を統一体としてとらえ、その方と家族の回復に向けた援助を通して、精神看護実践能力を養う。 2) 対象理解、自己理解、状況の理解を深め、治療的関係を形成する過程を振り返り、看護を実践する者としての自らの強みと課題を見出す。 3) 精神障害をもつ人の回復に向けた保健医療福祉チームにおける看護の役割と課題を理解する。				
[授業の概要]				
精神科病院において学生各自が入院患者を受け持ち、看護を実践する。生物体および生活体の統一体としてとらえ、その人と家族が回復するための看護を理解し、精神看護実践能力を養う。また、対象理解、自己理解、状況の理解を深め、精神障害をもつ人との治療的関係を形成する上での自らの強みと課題を見出す。そして、精神保健福祉の場における実際の活動を通して、精神障害をもつ人の回復に向けた保健医療福祉チームにおける看護の役割と課題を理解する。				
キーワード： 精神疾患、精神障害、精神科看護、治療的関係、精神科リハビリテーション				
[授業計画]				
回数	テーマ	内容		担当
第1回	学内オリエンテーション	実習の目的・目標、概要等の説明		小宮浩美 加藤隆子 小林雅美
第2回～9回	精神科病院 地域リハビリテーション施設 での実習	精神科病院において、受け持ち患者とかかわりながら回復するための看護を実施し、精神看護実践能力を身につける。 地域リハビリテーション施設における活動への参加を通して地域で暮らす精神障害をもつ人への支援と精神保健医療福祉チームにおける看護の役割を学び、課題について考察する。		
第10回	まとめ	実習のまとめ		
履修条件	精神看護学概論、看護技術論Ⅳ～Ⅴ、精神看護学方法論ⅠとⅡ、看護学入門実習、基礎看護学実習の単位を履修済みであること。			
予習・復習	予習：薬理学Ⅰ（総論）、病態学Ⅲ（高齢者・精神疾患論）、精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰ、精神看護学方法論Ⅱの授業資料をよく読み、内容を理解しておくこと。 復習：実習体験を振り返り、レポートにまとめて提出すること。レポートのテーマは実習中に説明する。			
テキスト	特に指定しない			
参考書・参考資料等	関連科目にて使用した教科書、参考書等			
学生に対する評価	実習目標の達成状況（80%）、学修態度（20%）により総合的に評価する。 *本実習終了時にはポートフォリオに基づく実習参加に対する振り返りを行うこと（但し、ポートフォリオの記述内容は評価に含めない）			

授業 科目名	地域看護学概論 Introduction to Community Health Nursing	履修年次: 必修:看2年 編3年	単位数: 2単位30時間 コード: NSP213	担当教員名: 科目責任者 佐藤紀子[保健師] (研究室:図書館棟1) 雨宮有子[保健師]、細谷紀子[保健師]、 杉本健太郎[保健師]、松浦めぐみ[保健師]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識, IV 健康づくりの実践, V 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 地域を基盤にした看護活動の基本的な考え方、公的なヘルスケアサービスの中で機能する保健師の活動について理解する。1) 公衆衛生看護の活動目標、保健師の機能役割、活動体制上の特徴について説明できる、2) 地区活動の目標、展開方法について説明できる、3) 地区活動の手段として行う家庭訪問の特徴について説明できる、4) 小集団・地域を対象とした健康教育の考え方と方法について説明できる、5) まちづくりと保健師活動の関連について説明できる				
〔授業の概要〕 保健師の実務経験に基づいて、講義および小グループによる演習を行い、家庭や集団・組織を含む地域を基盤とした公衆衛生看護活動の基本的な考え方と方法の特徴を学ぶ。本授業は、担当教員全員が保健師経験に基づき担当する。講義はオムニバス方式で佐藤、雨宮、細谷が行う。				
キーワード: 公衆衛生看護活動、保健師、地区活動、家庭訪問、健康教育、まちづくり				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/11	地域における看護活動とは	・地域看護活動と公衆衛生看護の位置づけ、 公衆衛生看護の定義と活動目標 ・公衆衛生看護を推進するために必要な能力、保健師の機能役割、法にみる保健師の規定	佐藤紀子
第2回	I・II			
第3回	4/18	歴史から地域における看護活動の考え方と方法を学ぶ	・住民とともに地域の健康課題を解決・改善する看護活動について考える(演習)	佐藤、雨宮、 細谷、杉本 松浦
第4回	I・II			
第5回	4/25	日本の公衆衛生看護活動の歴史と変遷	・保健師活動の源流～保健師規則、保健婦規則制定以後の保健婦活動、ヘルスニーズに対応した保健師活動の取り組み	雨宮有子
第6回	I・II			
第7回	5/2	地区活動の手段として行う家庭訪問の方法①	・行政保健師が行う家庭訪問の特徴について考える(演習) *家庭訪問活動事例を読み、課題に取り組む	佐藤、雨宮、 細谷、杉本 松浦
第8回	I・II			
第9回	5/9	地区活動の手段として行う家庭訪問の方法②	・事例を踏まえ、地区活動の手段として行う家庭訪問の方法を学ぶ ・事例からケアチームづくり・ケア体制づくりへの発展を学ぶ	佐藤紀子
第10回	I・II	地域におけるケアチームづくり・ケア体制づくり		
第11回	5/16	地区活動の基本 地区活動計画の方法と考え方	・対象集団の捉え方・活動方法の特質、地区活動計画の方法と考え方、保健師活動と施策化	佐藤紀子
第12回	I・II			
第13回	5/23	地域における健康教育	・小集団・地域を対象とした健康教育の考え方、方法および実際	雨宮有子
第14回	I・II			
第15回	5/30 I	地区活動とまちづくり	・住民とともに展開する保健師活動、住民協力者・地区組織の育成	細谷紀子
履修条件	特になし(看護学入門、看護入門実習で学んだ内容について振り返りをしておくこと)			
予習・復習	毎回テキストの授業範囲を読んで予習復習すること			
テキスト	①宮崎美砂子編:最新公衆衛生看護学総論 日本看護協会出版会 ②太田祖電他著:沢内村奮戦記 住民の生命を守る村、あけび書房			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する			
学生に対する評価	学習態度;積極性(10%)、事前・事後課題レポート;準備状況と学習内容の理解度(20%)、筆記試験;学習内容の理解度(70%)により、総合的に評価する。 ※事前・事後課題の詳細や提出方法は、授業時間内に説明する。※本授業終了時には、ポートフォリオに基づく授業参加に対する振り返りを行うこと(但し、ポートフォリオの記述内容は評価に含めない)。			

授業科目名	地域看護学方法論 I Methods I in Community Health Nursing (Woman and Child Health)	履修年次:	単位数:	担当教員名: 科目責任者 佐藤 紀子 (研究室 図書館棟 1)
		必修: 看2年 編3年	1 単位 15 時間 コード: NSP214	
実務経験のある教員による授業科目				
〔DP〕 III 実践に必要な知識, IV 健康づくりの実践, V 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 母子保健・学校保健の観点から、地域全体の健康・生活の質向上を目指し、個人・家庭・集団・地域を対象として生活の場に応じて展開される公衆衛生看護活動の考え方と展開方法について理解できる。1) 地域保健法に基づく保健所・市町村および所属する保健師の役割・機能について説明できる、2) 母子保健福祉活動の理念と変遷を踏まえ、子育て支援における保健師の役割と活動方法について説明できる、3) 学校保健活動の実際を踏まえ、養護教諭の役割・機能について説明できる				
〔授業の概要〕 地域保健活動の基盤となる地域保健法を踏まえ、母子保健に関わる法律・制度、および歴史的変遷、保健師の役割と活動展開の方法について学ぶ。学校保健については、地域社会とのかかわりの中で、学校関係者と家族の健康を支援する方法と、個別援助から学校全体への支援へと発展させる方法について学ぶ。本授業は、第5回目までは保健師の実務経験に基づき佐藤が、第6回目以降は養護教諭の実務経験に基づき特別講義講師が担当する。				
キーワード: 地域看護活動、母子保健、保健師、学校保健、養護教諭				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	11/22 45分	地域保健体制下の地域看護活動	・地域保健法に基づく保健所・市町村に所属する保健師の役割・機能 *地域保健法および基本指針の内容を復習	佐藤紀子
第2回	11/29	母子保健福祉対策と保健師活動①	・母子保健福祉活動の理念と変遷、子育て支援システム *テキスト①②を用いて講義内容を予習・復習	佐藤紀子
第3回	12/6	母子保健福祉対策と保健師活動②	・地域の子育て支援における保健師の役割と活動の展開方法① *家庭訪問計画作成課題に取り組む	佐藤紀子
第4回	12/13	母子保健福祉対策と保健師活動③	・地域の子育て支援における保健師の役割と活動の展開方法② *育児期の家族に対する家庭訪問計画について復習	佐藤紀子
第5回	12/20	母子保健福祉対策と保健師活動④	・児童虐待予防活動における保健師の役割 *テキスト①②を用いて講義内容を予習・復習	佐藤紀子
第6回	1/10	学校保健とは 学校保健活動の実際	・児童生徒の健康課題の実態、学校保健の歴史・しくみと学校保健活動 ・保健管理(救急処置、健康診断、健康観察、疾病管理予防、学校環境衛生)と保健教育の実際 *学校保健安全法と学校保健の領域・構造、保健管理・保健教育の内容についてテキスト③を用いて予習・復習	亀崎路子 (特別講義講師)
第7回	1/24	養護教諭の役割・機能①	・養護教諭の職務と保健室経営、健康相談の実際 *保健室の機能と養護教諭の職務の特質、健康相談における養護教諭の役割・機能を予習・復習	亀崎路子 (特別講義講師)
第8回	1/31	養護教諭の役割・機能②	・保健組織活動の実際、学校内外との連携協働を通じた健康支援に果たす役割・機能 *組織活動における養護教諭の役割・機能を予習・復習	亀崎路子 (特別講義講師)
履修条件	特になし(地域看護学概論の学習内容を復習しておくこと)			
予習・復習	上記*参照			
テキスト	①「国民衛生の動向」厚生労働統計協会 ②「最新公衆衛生看護学 各論1」第3版 日本看護協会出版会 ③「学校保健ーヘルスプロモーションの視点と教職員の役割の明確化」東山書房			
参考書・参考資料等	「新版 養護教諭の行う健康相談」大谷尚子 他著、東山書房			
学生に対する評価	学習態度; 積極性、事前課題の取り組み状況(10%)、筆記試験; 学習内容の理解度(90%)により、評価する。*事前課題の詳細や提出方法は、授業時間内に説明する。 *本授業終了時には、ポートフォリオに基づく授業参加に対する振り返りを行うこと(但し、ポートフォリオの記述内容は評価に含めない)。			

授業 科目名	地域看護学方法論Ⅱ (MethodsⅡ in Community Health Nursing (Health Promotion, Disease Prevention, and Wellness))		履修年次: 必修: 看3年 必修: 編3年 実務経験のある教員による授業科目	単位数:2 単位 30 時間 コード: NSP215	担当教員名: 科目責任者 雨宮有子 [保健師] (図書館棟2)、 細谷紀子、杉本健太郎
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践、Ⅴ健康づくりの環境の整備・改善					
〔授業の到達目標及びテーマ〕 ライフステージ・健康レベル・生活の場の特性に応じた公衆衛生看護活動の考え方と展開方法について理解できる。関連する各種法制度・保健施策等の変遷と現状について理解できる。					
〔授業の概要〕 (オムニバス方式により、以下の授業計画のように、各教員が保健師の実務経験に基づき担当する) 地域全体の健康・生活の質向上を目指し、個人・家族・集団・組織・地域を対象として、ライフステージや健康問題の観点から、家庭や地域、職場といった生活の場に応じて展開される公衆衛生看護活動の考え方と展開方法について学習する。具体的には、成人・高齢者支援、障害児者支援、難病対策、感染症対策、産業保健に関わる内容について学ぶ。					
キーワード: キーワード: 成人・高齢者保健、障害児者支援、難病支援、感染症対策、産業保健					
〔授業計画〕					
回数	日付	テーマ	内 容		担当
第1回	4/9 I	成人・高齢者 保健活動1~4	・保健の動向・成人保健の理念・歴史的変遷 ・成人保健施策と保健師活動(健康日本21)		杉本健太郎 [保健師]
第2回	4/9 II		・成人期の生活と個人・家族・集団・組織への健康支援 ・高齢者支援における保健師活動		
第3回	4/16 I		・介護予防活動の基盤となる施策・制度・事業 ・高齢者の権利擁護、地域における高齢者虐待防止活動		
第4回	4/16 II		*テキスト①3編1章・2章2、②1章IIの予習/復習		
第5回	4/23 I	障害児者 保健活動1~4	・障害児者保健福祉行政施策の成り立ちと現状		細谷紀子 [保健師]
第6回	4/23 II		・障害児者および家族への支援の基本と保健師の役割		
第7回	4/30 I		・障害児者への支援における地域体制づくり ・地域における自殺対策と心の健康づくり		
第8回	4/30 II		*テキスト①3編2章3・4、②第2章I IIの予習/復習		
第9回	5/7 I	難病 保健活動1~2	・難病患者に対する保健・福祉施策と保健師活動		雨宮有子 [保健師]
第10回	5/7 II		*テキスト①3編4章2、②第2章IIIの予習/復習		
第11回	5/14 I	感染症 保健活動1~2	・感染症対策の変遷と保健師活動		新谷奈苗 [保健師] (特別講義講師)
第12回	5/14 II		・結核対策の概要と保健師活動 *テキスト①3編3章、②第2章IVの予習/復習・成人		
第13回	5/28 I	産業保健・ 産業看護1~3	・産業保健・看護の理念、産業看護職の職務		新谷奈苗 [保健師] (特別講義講師)
第14回	5/28 II		・産業保健関連法規と産業保健活動		
第15回	5/28 III		・対象者の理解と産業保健活動 *テキスト③ 対象となる章を読んでおくこと		
履修条件		なし。但し、地域看護学概論の教授内容について復習し理解している状態で履修してください。			
予習・復習		上記*を参照			
テキスト		・厚生労働統計協会編:国民衛生の動向(2年次購入済) ・宮崎美砂子、他編:最新公衆衛生看護学各論1、日本看護協会出版会(2年次購入済)			
参考書・参考資料等		・河野啓子:産業看護学 第2版 2024年版 日本看護協会出版会 ・労働衛生のしおり 中央労働災害防止協会			
学生に対する評価		筆記試験;学習内容の理解度(90%)、授業態度;積極性(10%)により、総合的に評価する。 ※本授業の終了時には、ポートフォリオに基づく授業参加に対する振り返りを行うこと(但し、ポートフォリオの記述内容は評価に含めない)。			

授業 科目名	地域看護学方法論Ⅲ Methods III in Community Health Nursing (Community-Focused Nursing Process)	履修年次:	単位数:	担当教員名: 科目責任者 佐藤紀子[保健師] (研究室:図書館棟1) 雨宮有子[保健師]、細谷紀子[保健 師]、杉本健太郎 [保健師]、 松浦めぐみ[保健師]
		必修: 看3年 編3年	2単位 30時間 コード: NSP216	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅳ 健康づくりの実践, Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 地域看護管理の概念と特徴を学び、地区管理の視点から、一定地域の健康課題の分析および地区活動計画の立案ができる。演習を通して地区管理の方法を具体的に理解し、地域全体を支援する地域看護の特性及び保健師の役割について理解する。				
〔授業の概要〕 保健師の実務経験に基づいて、地域における看護管理の基本的な考え方を教授し、紙面上の地区活動事例を用いて、一定地域の情報収集・分析・地区活動計画の立案過程について演習を行う。本授業は、担当教員全員が保健師の実務経験に基づき学習の支援を行う。講義部分は、佐藤と細谷が担当する。				
キーワード: 地区活動、地区診断、地区活動計画立案、地域看護管理				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	6/4 II	地域看護管理	・地域における看護管理の機能とその特徴	佐藤紀子
第2回	6/11 I	地区活動の過程と地区診断	・地区活動の過程と保健師が行う地区診断の特徴・方法	細谷紀子
第3回	6/11 II	地域の実態把握1	・事例の背景にある問題の抽出と整理 *次回までの個人ワーク①: 上記内容	佐藤、雨宮、 細谷、杉本、 松浦
第4回	6/18 I	地域の実態把握2	・個別事例の実態の集積と構造化	
第5回	6/18 II	地域の実態把握3	・地域全体の状況把握のために収集すべき情報の整理 *次回までの個人ワーク②: 上記内容	
第6回	6/25 I	地域の実態把握4	・地域の実態の集積と構造化	細谷紀子
第7回	6/25 II	健康課題の分析方法	・集積した地域の実態から健康課題を分析する方法 *次回までの個人ワーク③: 健康課題の分析	
第8回	7/2 I	地区診断1	・地区診断の実施(健康課題の明確化)①	佐藤、雨宮、 細谷、杉本、 松浦
第9回	7/2 II	地区診断2	・地区診断の実施(健康課題の明確化)②	
第10回	7/9 I	地区活動計画立案の方法	・地区活動の過程と計画立案・評価の方法	細谷紀子
第11回	7/9 II	地区活動計画立案1	・地区活動目標と活動方針の設定 *次回までの個人ワーク④: 地区活動計画の情報収集	佐藤、雨宮、 細谷、杉本、 松浦
第12回	7/16 I	地区活動計画立案2	・次年度の地区活動計画の作成①	
第13回	7/16 II	地区活動計画立案3	・次年度の地区活動計画の作成②	
第14回	7/23 I	まとめ1	・地区活動計画の発表と意見交換①	
第15回	7/23 II	まとめ2	・地区活動計画の発表と意見交換②	
履修条件	特になし(地域看護学概論で教授した内容、特に「地区活動の基本」「地区活動計画の方法と考え方」について復習し、理解している状態で履修してください。)			
予習・復習	上記*を参照			
テキスト	特に指定せず			
参考書・参考資料等	宮崎美砂子編:最新公衆衛生看護学 総論(日本看護協会出版会)、 国民衛生の動向、 神馬征峰訳:実践ヘルスプロモーション(医学書院)			
学生に対する評価	グループワークの取組状況;学習内容の理解度と積極性(20%)、個人ワーク;学習内容の理解度(35%)、最終レポート;到達目標の達成度(45%)により、総合的に評価する。 ※レポート課題の詳細や提出方法は、授業時間内に説明する。 ※本授業の終了時には、ポートフォリオに基づく授業参加に対する振り返りを行うこと(但し、ポートフォリオの記述内容は評価に含めない)。			